



ご挨拶

日頃から市政へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。

コロナウイルス感染症は、変異を重ねるたびに感染拡大の波が大きくなり、一向に収まる気配がありません。感染予防の努力を続けながらコロナと闘っていかなければなりません。

今しばらくお互いに頑張ってください。

昨年からは神戸市会の経済港湾委員会の副委員長を務めておりましたが、今年の7月より、建設防災委員会の副委員長を拝命いたしました。引き続き皆様からのご要望やご意見をいただき、諸課題をしっかりと受け止めて活動を続けて参ります。今回の市政報告は、6月の経済港湾委員会、7月での建設防災委員会での私の発言についてご報告させていただきます。引き続きどうぞよろしくお願いたします。



令和4年 建設防災委員会(7月6日)質疑

■ 建設局 菊水町10丁目交差点、鶴越交差点について質疑

平野達司 西神戸有料道路が無料になってから、湊町線、山麓線、夢野白川線に、大型トラック、コンテナ車が多く流れ込んでいる。

近隣の皆さんからは、騒音の苦情もあり、騒音を抑える舗装などをして努力していることも十分認識している。その中で、東山菊水線、通称そうれん道が、現在、事業計画が進んでいるが、その完了と同時に、菊水町10丁目の交差点、山麓線と夢野白川線の交差する鶴越の交差点を改良すると聞いている。



菊水町10丁目事故現場

そうした中で、6月29日の朝7時20分に、山麓線から夢野白川線に行く大型トレーラーが、菊水町10丁目の交差点のカーブで横転事故を起こした。現地では、実は3回目、全てトラックが事故を起こしており、バス停の3つの屋根のうち、2つが吹っ飛んでいるような状況。

幸いにも事故直前に市バスが来て、乗客は被害に遭わなかった。しかしこの場所は、夢野の丘小学校、夢野中学校、夢野台高校の通学路として利用されており、狭い場所で危険ではないか、建設局として、人命第一としてどのような対応を考えているのか。

林建設局長 事故ですが、6月29日の7時20分、山麓線で西行きの車両(トレーラー)が菊水町10丁目の交差点、緩やかに右に曲がるカーブで横転をした。幸いにも人身事故は、この運転手の方が軽症だった程度で済んだ。

警察が速度なのか、運転に問題があるのか、積荷なのか原因は調査中です。

建設局は、非常に重大な関心、問題意識を持っている。

事故原因の調査の結果を待つことなく、できることは速やかに実施していきたい。一つの一般的な対応として、カーブですので、減速を促進させる施策が考えられる。そして、一つには車線、境界線なり外側線に、その周りにドットラインをつけ、車道を狭く見せること。これにより、ドライバーは非常に車道が狭いというイメージを持ち、減速効果がある。

今現地で仮置きで防護柵を置いているが、堅固な防護柵に置き換えていきたい、今どんな構造ができるかを事務所で検討している。

これに加え、さらに減速措置ができないか、一つには多機能の排水性舗装も一つ考えられる。この交差点全面の路面を着色することにより注意を促すという方法、これは警察許可が必要だが、こういったことについても取り組んでいきたい。

もしこの捜査の結果、原因を踏まえ、さらなる道路改善というものも考えていきたい。

副委員長の指摘にあった、東山菊水線も交差点改良の検討を都市局と一緒に進めているのは事実ですが、その整備には時間がかかる。我々としては、その東山菊水線の整備を待つことなく対応ができるものについては鋭意検討を進め、具体的な対応に結びつけていきたいと考えている。

いずれにしても非常に重大な事故だと考え、事故を反省しながら、どういった改良ができるかというのを鋭意検討していきたいと思っている。



建設防災委員会(7月6日)での質疑

平野達司 私も当日、事故の2時間後、現地も見だし、現地の皆さんともいろいろお話を伺った。実際にお店の方から目の前で事故を目撃された話では、そこで外側の車線を走ってきたこのトラックに危険を感じ店の中に入られた。トラックはそんなにスピードを出していなかったが横転した。普通右カーブであれば、左側が盛り上がり内側に傾くように道路構造をする必要があると思うが、こちらは外側に少し傾斜している。スピードの問題、運転手の技術、中の荷物の状況にもよるかもしれないが、少し傾斜しているところが、大きな問題があるのではないかと。また、スピードの問題について、トラックはそんなにスピード出していないが、乗用車は、すいてるときにはこのカーブでスピードを出し、建材屋さんのシャッターのところに突っ込んでいたことが何回かあった。乗用車に対しては、速度減速の啓発が必要かと思うし、トラックについては、道路を知っているトラックは内側を走っている。慣れてない運転手が外側を走り、今回のような状況になってしまう。ここの傾斜を検討いただく必要があると思うが、いかがか。

林建設局長 スピードは、警察も、ドライブレコーダーで明らかになるかと思う。傾斜については、取付道路が会下山のほうにあるため、あまりよくないと横断勾配の状態になっている。一定の改良が必要で、今後少し検討が必要ということです。今、車線数としては上下で2車線ずつ、4車線だが、車線の構成の在り方まで含めて検討する必要が出てくる可能性がある。交通が集中することも一つの要因なので、交通を分散させる施策も考えられる、単に道路改良だけでなく、広い観点でいろんな検討をしたい。

平野達司 短期と中期、長期にできる事柄がそれぞれあるかと思いますが、ぜひ進めていただきたい。また、今の菊水町10丁目からもう1つ北西側の鶴越の交差点について、山麓線から夢野白川線に上がるとき、右折だまりが2車線という形になっているので、右折したら、すぐに1車線になる状況です。渋滞緩和ということで、この形の構造にはなっていると思うが、真面目に右側車線で並んでいるところへ、結構強引な形で割り込んで入ってくる車はかなり多く、苦情もたくさん聞いている。こちらの山麓線の渋滞緩和も必要ですが、強引な割り込みに苛立つクレームが多くあり、ここの構造も考える必要があると思う。一つ提案ですが、2車線目のところを、市バスだけ右折できるような形にし、右折の信号が少し長めにして、右側の道路の車を早めに流すなど、実証実験等で何かできないものかなと思います。この路線は夕方大変混むので、分散するのが一番ですが、その点も検討できないか。

林建設局長 副委員長から1つ提案をいただきましたので、その点も含め、警察も含めて検討させていただきたいと思います。

令和4年 経済港湾委員会(6月20日)質疑

■ 港湾局

平野達司 兵庫運河は兵庫漁協、浜山小学校の児童・生徒と、地域の皆様で、アサリの実証実験が進んでいる。2年前に人工干潟も整備され、ブルーカーボンにつながるアマモの育成も進んでいる。水質も改善されて、魚も寄ってきて、兵庫運河の環境がすごくよくなってきている。5月14、15日で25時間調査を現地で実施した。ブルーカーボンにつながるアマモの生育域が広がり、また人工干潟には1平方メートル当たりのアサリが平均で98個、最大で175個も確認され、地引き網ではアナゴも見つかった状況です。

さらに6月16日、子供たちと一緒に生き物調査を実施しそこにタコが兵庫運河で初めて見つかった。この取組、兵庫漁協、浜山小学校、兵庫運河を美しくする会など、積極的に参加され、国交省、神戸市、地域と行政が一体となった環境改善に取り組んでいるのは、意義深いものだと感じている。

兵庫運河を所管する港湾局として、この環境活動について、どのように評価されているのか。



兵庫運河の天然あさり

長谷川港湾局長 兵庫運河は非常に水質が悪かったのが改善できたのは、地域の方や様々な方々の御尽力、御努力の成果だと思う。非常に感謝を申し上げたい。

私も、兵庫運河に20年ぐらい前から関わっており、当時は水質の状態が悪く、今の組合長はバイオの力を使いながら水質浄化できないか、そんな取組をされてた記憶がある。そういう1つ1つの取組が、今の兵庫運河の水質改善につながっていると考えている。

アマモ、アサリが生息するのも、かなりの努力の成果だと思う。実はアマモは神戸港でも見れないもの。一番きれいな海での舞子でしか実はアマモがなかなか見れないのが現状だ。

アサリも天然でこれだけいる所は限られている。やはりこれも兵庫運河は自然環境が極めて高い状態。

県立の非常にすぐれた高校生の皆さんが、この兵庫運河を訪れて、実際の研究をされていると聞いている。非常にレベルの高い、学習拠点と研究拠点になっているイメージが私にはある。ここまで先進的なエリアになった兵庫運河をつくっていただいた地域の皆様方に、感謝し、これからますますの発展をさせたいと思う。



兵庫運河の地曳網で採れたアナゴ

平野達司 まさにこの環境の状況を持続可能に続けていくには、研究していただいている大学の先生、高校生の努力、それと併せて、子供たちに環境授業をつうじて、意識を高めていく必要もあると思う。これが次世代の子供たちにつながっており、実際に浜山小学校の子供たちは、環境意識はすごく高まっている。さらに保護者まで意識が高まっている。



兵庫運河で採れたタコ

教育委員会への質疑を通して、浜山小学校以外の小学校にも、環境授業が広げられないかと検討している。あとヴィッセル神戸と初めてのコラボで、6月26日の日曜日に子供たちを対象にした神戸港わくわく環境調査教室という環境授業を含めて、ブルーカーボンの取組をヴィッセル神戸の試合前に開催されることになった。子供たちにこの環境の意識を高めていくには、港湾局は、小・中学生を対象に配付している副読本を通じて、兵庫運河の豊かさや神戸空港島の傾斜護岸の活用など環境についてもPRしていく必要があるのではないか。

川中港湾局副局長 港湾局では、神戸・みなと体験や神戸港バックヤードツアーなどで、広報の強化にも取り組んでいる。特に脱炭素を目指す取組への機運が高まる中、港湾局としても兵庫運河の豊かさや神戸港の環境施策を学ぶ機会を創出することは、非常に重要であると考えている。

兵庫運河のプロジェクトはもちろん、神戸空港の護岸でも藻場が形成されていることから、委員提案の神戸・みなと体験において、神戸港の環境へ取組を実際に体験していただくプログラムを設けることができるよう、今後、地元の団体と協議を進めていきたい。副読本についても、次回の刷新するタイミングに合わせて、子供たちへの環境意識を高める取組も引き続き実施していきたい。

平野達司 ぜひ進めていただきたい。

先日、世界一受けたい授業というテレビ番組で、神戸空港島の傾斜護岸のアマモが放送された。ブルーカーボンにつながる取組、神戸空港、神戸港の海の豊さをもっとPRすべきではないか。

兵庫運河をはじめとするそのブルーカーボンの取組、これをPR動画を作って、もっと発信すべきじゃないか。



経済港湾委員会(6月20日)での質疑

長谷川港湾局長 私もテレビの放映を見ました。空港島の藻場の状況、海の豊かさの状況が紹介されており非常にうれしく思いました。

どういふものをうまくPRできるのかは、動画、写真、いろんなものを組み合わせながら、この環境の海の豊かさを、表現できるやり方について専門家を入れて、コンテンツを整理し、情報発信に努めたい。いろんな手段を講じながらPRをしてまいりたい。

平野達司 きれいな動画を作ってPRできれば、昨年認証されたブルーカーボンによるCO2削減量を、購入したJブルークレジットとして購入された企業が、PRしたりして神戸港のブルーカーボンが広がっていくのではないかと、

港湾局としてカーボンニュートラルポートを形成していくために、神戸の海岸線は総延長が138キロあり、それだけ海に接している所にアマモの種を広げて、藻場を形成していくべきではないか。阪神高速湾岸線西伸部が工事中であるが、その橋脚の足元に傾斜護岸で砂地をつくって、アマモを形成していくことができれば、よりブルーカーボンにつながるのではないかと。

松木港湾局副局長 兵庫運河、空港島、ポートアイランド2期の西護岸以外でも広げてはとのことだが、確かに海岸線の総延長が138キロあり、そこをいきなりは難しいが、湾岸道路西伸部において何かできないかと考えている。工事の中で藻場の形成など、環境に配慮した整備についてどうできるか、国への働きかけ、漁業者、地域の方々、それと栽培漁業センターを所管する経済観光局の方々とも連携して、検討していきたい。

平野達司 神戸は海と山が育むグローバル貢献都市としてうたっているもので、ブルーカーボンにぜひ力を入れていただき、研究している高校生、大学生、そして大学も連携し、小学生に対しては教育も含めて進めていくことにより、持続可能なものにしていきたい。それが続いていけば、最終的には全国アマモサミットを神戸に誘致という形ができるのではないかと考えている。目標を持って進めていければと思う。

■ 経済観光局

平野達司 栽培漁業センターに、アマモの種の栽培計画が進んでいると聞いているが、この計画の進捗状況と今後のスケジュールについては。

安岡農政担当局長 アマモの栽培は、昨年度漁業者さんから、栽培漁業センターに対し、藻場の造成に使用するアマモの種苗生産ができないかと相談があり、藻場の造成は、稚魚の育成の場となり、栽培漁業センターで生産した稚魚の放流効果の向上につながる取り組みであることから、今年度からアマモの栽培試験を行うことになった。

現在の進捗状況は、5月に漁業者、神戸農政公社と、NPO法人様、神戸市で協議し、アマモの栽培試験用の種を確保し、既にアマモの栽培をしている市内の漁業者と連携して栽培試験に取り組むことで、意識の共有を図っているところ。

今後は、アマモの栽培実績のある他都市への視察を行う予定。種まきの適正な時期が10月頃と聞いているので、この際に栽培漁業センター内で、水槽でアマモの栽培を開始する。この事業が成功するために今準備を進めている。

平野達司 アマモは、ブルーカーボンの生態系にかなり貴重な存在であり、アマモの種の栽培が成功すれば、神戸市として、ブルーカーボンの推進に大きく踏み出したことになる。栽培漁業センターの今後の方向性として、そのアマモの栽培についても力を注いでいく必要があると考えているがいかがか。

安岡農政担当局長 アマモを含めてブルーカーボンは、我々も経済局も非常に重要なことと認識しており、観光局、港湾局と一緒にブルーカーボンの推進をしてきた。

漁業振興の観点からは、ブルーカーボンは魚介類の産卵や稚魚の育成の場としては非常に重要であると認識しており、そのためにもアマモの種苗生産は必要だと考えている。適正時期の10月から栽培試験に取り組み、ブルーカーボンの拡大に向けて治験を深めて、実験を進めていきたい。

(質疑のやりとりは要点を中心に、あとはカットしています。言葉のやりとりは丁寧な言葉や敬語を抜いています。)



神戸市垂水区にある神戸市立栽培漁業センター

神戸市会議員平野達司(たつじ)事務所
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61マルシン市場2F
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじHP



平野たつじFacebook
神戸市の情報をお伝えいたします。

神戸市会の
本議会、委員会を
インターネットにて
閲覧できます。



神戸市会